

柔軟な思考と 強靱な精神力を備えた 徳大生よ育て



日本新薬株式会社
執行役員 人事部長

三浦 朗 みづら あきら



日本新薬(株) 人事部の三浦です。人事部業務の中に人事異動・採用関係業務がありますが、これら業務を通して、弊社の社長をはじめ役員、新入社員を含む従業員、そして学生諸君と接し、価値観など、その方の様々な側面を垣間見る事になります。その中で感じる点について述べさせていただきます。

最近は何々人の個性が大事とされ、各人の価値観が多様化しています。必ずしも企業の中で管理職になり「課長↓部長↓役員・社長」と昇進し、高給を得るという事を望まず、自分の家庭・趣味・社会活動などを生き甲斐とする生き方も立派だと思えます。

しかし、企業においては、この考え方が余りにも強く出ると「ただの我儘社員」と映る場面があります。その例が人事異動など職種変更や昇格時です。研究開発部門から管理部門へ異動すると、「私は研究が好きです。他の職種に興味はありません。」と主張する研究員、ポストに就任後も「マネジメント」に向き合えない管理職、「実家の近くや大都市以外の勤務地は嫌」と言う営業系新入社員。「企業に勤務」という思考が停止しているとか考えられない社員が必ずいるのです。個の自由は尊重されなければなりません。企業に入社するという事は契約事です。企業は快適で安全な就業環境を提供し、従業員は賃金に見合う良質な労働力を提供する約束です。

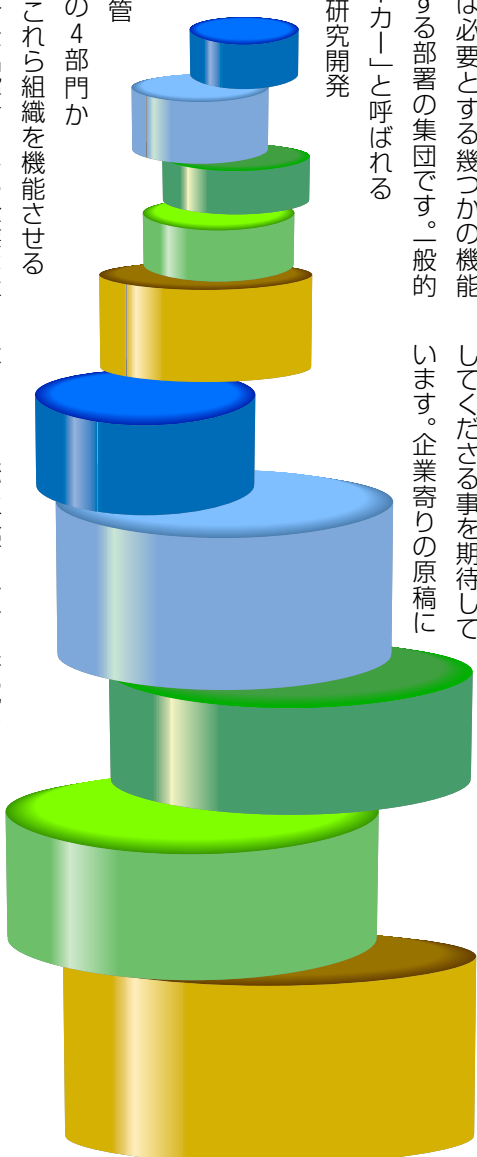
企業は必要とする幾つかの機能を遂行する部署の集団です。一般的に「メーカー」と呼ばれる企業は、研究開発部門・生産部門・営業部門並びに管理部門の4部門からなり、これら組織を機能させるために人員を配置します。企業は社員の異動に当たって非常に気配りを行っています。異動に対して「ノー」と反応されると、社員の価値観や人生観を尊重しつつも、人事担当者としては、

「何故就職したの?入社試験の時、職種は問わず、勤務地は何処でも大丈夫です、と言ったのは誰?」と思ってしまうのは私の勝手?

通常の場合、人生は順風満帆ではあり得ず、企業に就職すれば必ず配置転換があると覚悟して欲しいも

のです。後輩諸君、就職希望であれば、変化してゆく状況に対して果敢に挑戦し、新しい環境を切り開いてゆく、そんな柔軟な思考と強靱な精神力を持った学生になって下さい。また、母校徳島大学はそんな学生を育成して下さる事を期待しています。企業寄りの原稿に

なりましたが、大学における研究も同様の思考と精神力が必要でしょう。「徳島大学出身者が我国の、世界の研究と経済界の中で大活躍!!」夢ではなく現実にしたいものです。



略歴

- 昭和44年3月 徳島大学薬学部製薬化学科卒
- 昭和46年3月 徳島大学大学院薬学研究科修了
- 昭和46年4月 日本新薬(株)入社
- 平成 4年4月 生物研究所薬理一課長
- 平成 6年3月 営業本部京都支店学術部長
- 平成 8年4月 営業本部医薬研修部長
- 平成14年4月 人事部長
- 平成15年4月 執行役員人事部長